

## 令和元年度 明石市議会生活文化常任委員会 議会報告会実施報告書

開催日時	令和2年2月6日(木) 午後2時～午後4時	
開催場所	兵庫県水産会館 4階第5会議室	
出席議員	委員長	北川貴則
	司会者	梅田宏希
	記録者	竹内きよ子
	その他	榎本和夫、家根谷敦子、寺井吉広、楠本美紀(以上、生活文化常任委員) 林丸美、辻本達也(以上、議会活性化推進委員)
参加人数	明石市漁業組合連合会 9名(うち随行者5名) 兵庫県漁業協同組合連合会 5名(うち随行者4名)	
報告内容	<p><b>○議会報告</b>            豊かな海づくりについての市議会での審議経過について(楠本委員)            全国豊かな海づくり大会の概要及び過去の開催事例について(寺井委員)</p> <p><b>○兵庫県漁業協同組合連合会から豊かで美しい海への取組みと課題について報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沿岸部の埋め立てにより漁場が失われ、海底の砂の減少によって二枚貝も生育しづらくなった。</li> <li>・高度成長期以降に、公害対策として窒素、リンの排出抑制を進めた結果、海が貧栄養化し、2012年以降、貧栄養海域が急激に広がった。その結果、生態系ピラミッドが細り、漁獲量の減少、ノリの色落ちなどの問題が顕在化するようになった。</li> <li>・こうしたことを受け、2015年に瀬戸法が改正され、新たに「豊かな海」を目指す理念が掲げられ、冬季に下水処理放流水の全窒素濃度を引き上げる季節別運転の本運用の開始や、窒素・リンの水質目標下限値を設ける県条例の制定、県がこれまで上乘せ規制を行ってきた排出基準の一定の水域での緩和などの措置が進められてきている。</li> <li>・明石市の大久保浄化センターについては、処理水が河川放流であり、かつ、環境基準点が下流にあることからこうした措置の適用外となっている状況にある。</li> </ul>	
主な意見・提言・要望と応答	<p><b>○意見交換</b></p> <p><b>①豊かな海づくりの啓発について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・榎本副委員長：「豊かな海」について広く啓発するためには、子どもに対して啓発していくことが有益であると思う。どのように取り組んでいるか。</li> <li>・明石市漁業組合連合会：子どもを対象とした料理教室、食育をテーマとした出前授業などを行っているが、実施できる回数や予算に限りがある。明石市の方で小学校の全学年を対象に啓発活動ができるよう進めていってもらいたい。事業費を助成するなどしてもらいたい。</li> <li>・兵庫県漁業協同組合連合会：魚がいなくなったといえば、いまだに汚いから、採りすぎたからということをする人がいるが、そうではないということをわかりやすいキャッチフレーズで示していかないといけない。栄養塩が少なくなって、結果として魚が少なくなっているという目に見えない世界をいかに上手に表現できるかということが大切。上手な説明を、ぜひ皆さんにはお願いしたい。</li> </ul>	

## ②谷八木川の状況について

- ・明石市漁業組合連合会：谷八木川は、今ではアサリもなく、栄養がない状況。何としても、パイプを引いてでもやってほしいというのが漁業者の思いだ。
- ・明石市漁業組合連合会：昔は「日本一汚い川」とうたわれていた谷八木川なので、放流水の栄養をふやすことについては、地域、住民から反発があるのだと思う。でも今は、しっかりと管理、監視しながら放流をすることができる。地域や住民と話し合いができるのであれば、それを理解してもらえるのではないか。何億もかけて直接放流をするよりはいいと思う。  
県か、市か、ということではなくて、仲良く話をしてもらえたらいい。  
地域には漁業者として話をしに行く用意もあるので、何とか谷八木川の問題を進めてほしい。
- ・榎本副委員長：大久保浄化センターからの放流水に栄養塩の濃度を上げることができたら、効果はどの程度出るのか。
- ・明石市漁業組合連合会：過去に二見の下水処理場で栄養濃度を上げた結果、次年度にもものすごくタコの漁獲量がふえたという実例がある。現状でも明石では、他の地域のタコはいなくなったが、二見にだけいるという状況であるから、効果は高いと思われる。
- ・楠本委員：住民としては、下水処理水の基準を緩和することに不安があるということもあると思うので、そうではないということを地域に説明すればいいと思う。
- ・明石市漁業組合連合会：谷八木川環境基準点放流口より下流にあることで、放流水の栄養塩の基準を緩和することができないが、この環境基準点を上流に上げるについては、市が計画を立てて、県が認可する形になっており、変更するためには、まず市からアクションをとらなければならない。
- ・梅田委員：まずは、谷八木川流域の地域住民への説明、働きかけから市として取り組むということが重要ということで理解した。

## ③後継者育成について

- ・明石市漁業組合連合会：昔は、限られた水産資源を分配するという発想で、親族以外の方の新規就業に否定的な時代もあったが、少しずつ門戸を広げてきている。しかし、初期に多額の費用がかかることもあり、新規参入はなかなか難しい。
- ・兵庫県漁業協同組合連合会：適切な世代構成にするためには、毎年必要な人数を継続的に確保することが重要だ。そのためには、漁獲量が安定し、漁業従事者の収入が安定することが必要だ。

## ④豊かな海づくり大会について

- ・明石市漁業組合連合会：明石だけでなく、県内の漁業者に声をかけて、何百隻という規模で盛大にパレードを行いたい。  
大会をきっかけとして地域全体が盛り上がり、大会が終わってからも続けられるようなことを視野に入れていきたい。  
子どもたちに参加してもらおうなど、市民と一緒に作り上げるという形でやっていきたい。また、さまざまな取り組みを、実際に目に見える形にしてほしい。

大会をきっかけに皆さんに漁業や漁法を知ってもらいたい。兵庫県が水産県であることもPRしていきたい。

- ・兵庫県漁業協同組合連合会：これまで式典行事と放流行事の場所は別であったが、今回の明石会場では一体で実施できるため、絶好の立地条件にある。豊かな海をテーマに入れて盛り上げていきたい。  
式典や放流行事に一般の方が参加できるような方策も考えるべきだと思う。

明石市議会議長 様

令和2年2月6日

上記のとおり報告します。

生活文化常任委員長 北川 貴則